大分大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

1　麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

②　麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

大分県内の主要な総合病院と連携し，各施設の特色を生かすことで，集学的医療ができる専門医を養成する．一般手術麻酔のみならず，心臓血管麻酔，集中治療，ペインクリニックの専門性も盛り込み，周術期をトータルでサポートできる専門医育成が可能．

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

効果的に知識，技術，態度を研鑽できるカリキュラムを構築し，各施設と連携しながら，その達成度を定期的に確認・評価し、必要な場合には随時修正を加える．

- 麻酔関連領域を網羅して研修するプログラム（後述のローテーション例Ａ）を標準プログラムとし，研修の前半２年間のうち少なくとも１年間，後半２年間のうち６ヶ月は大分大学医学部附属病院（専門研修基幹施設)で研修を行う．
- その他の研修プログラムとして、小児診療を中心に学ぶプログラム（ローテーション例Ｂ），ペインクリニックを中心に学ぶプログラム（ローテーション例Ｃ），集中治療を中心に学ぶプログラム（ローテーション例Ｄ）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも可能である．
- 上記プログラムでは大学病院だけでなく地域での麻酔関連医療を研修する目的で，地域医療支援病院である大分県立病院，大分医療センター，別府医療センター，大分赤十字病院，中津市民病院，アルメイダ病院，大分岡病院のいずれかで通算３か月以上の研修を行う．
- 上記プログラム（Ａ－Ｄ）以外に、九州地域の専門研修基幹施設との連携プログラム（ローテーション例Ｅ）を用意しており、大分大学医学部附属病院

で最低６カ月間の研修以外の期間は連携施設と協議して研修プログラムを実施する.

- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C（ペイン）	D（集中治療）	E（九州連携）
初年度前期	本院	本院	本院	本院	九州連携施設
初年度後期	本院	本院	本院	本院	九州連携施設
２年度前期	本院	本院	本院（ペイン）	本院（集中治療）	九州連携施設
２年度後期	本院	大分県立病院	本院（ペイン）	本院（集中治療）	九州連携施設
３年度前期	大分県立病院	大分県立病院	本院（ペイン）	大分県立病院	九州連携施設
３年度後期	大分医療センター	福岡市立こども病院	別府医療センター	大分岡病院	九州連携施設
４年度前期	大分市医師会立アルメイダ病院	福岡市立こども病院	大分赤十字病院	大分市医師会立アルメイダ病院	本院
４年度後期	本院(ペインまたは集中治療)	本院（集中治療）	本院（ペイン）	本院（集中治療）	本院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				

- 抄読会（金曜日）：関連領域の最新の英文科学論文の紹介，研究報告会.
- 勉強会（適宜）：初期・後期研修医を対象とした関連領域の勉強会.
- 麻酔科，集中治療部のカンファレンス（毎朝）
- 複数の診療科と合同で術前症例検討
- 学会参加：年 1 回以上，筆頭演者として発表する場合，交通費，宿泊費は援助.
- 論文：研修中に症例報告，原著論文など 1 編以上作成.

- 学習環境：個人専用デスクの確保.
- その他：大分大学学術情報拠点(医学図書館)への電子ジャーナル及びデータベースの利用可能．院内で定期的に開催される感染，医療安全，倫理等に関する講習会の受講.

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

大分大学医学部附属病院

研修プログラム実施責任者：松本　重清

専門研修指導医：松本　重清　（麻酔，集中治療）
新宮　千尋　（麻酔）
内野　哲哉　（麻酔）
安部　隆国　（麻酔，集中治療）
小山　淑正　（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
大地　嘉史　（麻酔，集中治療）
甲斐　真也　（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
中野　孝美　（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
佐々木　美圭（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
栗林　由英　（麻酔、集中治療）
小坂　麻里子（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
池邉　朱音　（麻酔）
深野　菜摘　（麻酔）
小林　朋暉　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：237

特徴：麻酔管理だけでなく，周術期管理医学として，集中治療やペインクリニックの教育にも力を入れている．希望者は緩和ケアチームへのローテーションも可能.

② 専門研修連携施設

1　大分県立病院

研修実施責任者：油布　克己

専門研修指導医：油布　克己（麻酔，集中治療）
木田　景子（麻酔，集中治療）
西田　太一（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：289

特徴：集中治療のローテーション可能．小児麻酔症例が豊富.

2　別府医療センター

研修実施責任者：大石　一成

専門研修指導医：大石　一成（麻酔，集中治療）
古賀　聡子（麻酔）
小林　加織（麻酔）

麻酔科認定病院番号：629

特徴：　産科麻酔の症例多い．また神経ブロック併用の麻酔も積極的に行っており，症例件数も多く学べる.

3　大分赤十字病院

研修実施責任者：松本　浩司
専門研修指導医：松本　浩司（麻酔）
　　蔀　亮　　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1079
特徴：腹部外科の症例が豊富.

4　大分医療センター
研修実施責任者：北　佳奈子
専門研修指導医：北　佳奈子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：734
特徴：腹部手術や整形外科手術が主で術後鎮痛を積極的に行っている．ICLS や災害医療への取り組みを麻酔科主導で行っている.

5　大分県厚生連　鶴見病院
研修実施責任者：服部　望
専門研修指導医：服部　望　　（麻酔）
　　岩松　有希子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1937
特徴：消化器外科の症例が豊富．超音波ガイド下神経ブロックを積極的に行っている.

6　大分岡病院
研修実施責任者：日髙　正剛
専門研修指導医：日髙　正剛（麻酔，集中治療）
　　椎原　啓輔（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1328
特徴：大分岡病院は，二次救急指定病院，地域医療支援病院として地域の中核を担う急性期病院です．昨年度は全身麻酔件数が年間 2000 件を超えており，消化器外科，心臓血管外科，整形外科，形成外科，脳神経外科，歯科口腔外科の症例が豊富で，緊急手術も多く経験できます．また，手術室（ハイブリッド手術室を含む），血管造影室での麻酔管理に加えて，集中治療室での全身管理についても研修することができます.

7　国東市民病院
研修実施責任者：佐藤　輝幸
専門研修指導医：佐藤　輝幸（麻酔）
　　松本　進一（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1942
特徴：高齢者の症例が多い.

8　中津市民病院
研修実施責任者：浅井　信彦
専門研修指導医：浅井　信彦（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1515
特徴：症例の種類も豊富で，胸部外科手術が多い.

9　大分市医師会立アルメイダ病院
研修実施責任者：伊藤　大真（麻酔，ペインクリニック）

専門研修指導医：伊藤　大真　（麻酔，ペインクリニック）
　　木村　めぐみ（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1583
特徴：緊急手術が多い．全体的にバランスよく症例が経験できる．

10　産業医科大学病院

研修実施責任者：堀下　貴文
専門研修指導医：堀下　貴文　（麻酔）
　　寺田　忠徳　（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
　　山本　克己　（麻酔，救急医療）
　　濵田　高太郎（麻酔）
　　橋本　航　　（麻酔）
　　原　幸治　　（麻酔，ペインクリニック）
麻酔科認定病院番号：184
特徴：産業医科大学病院は，北九州唯一の特定機能病院として高度医療を提供し続けており，地域がん診療連携拠点病院としても地域において重要な役割を担っている．また，手術症例は多岐にわたっており，ほぼ全ての外科系手術の麻酔管理の研修が可能であり，特殊疾患患者や重症患者の手術も多いため，質の高い教育を提供することができる．

11　地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市立こども病院

研修実施責任者：水野　圭一郎（麻酔，集中治療）
専門研修指導医：水野　圭一郎（麻酔，集中治療）
　　泉　薫　　（麻酔）
　　住吉　理絵子（麻酔）
　　藤田　愛　　（麻酔）
　　小栁　幸　　（麻酔）
　　伊藤　恵　　（麻酔）
　　百瀬　未来　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：205
特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月 30～50 例のペースで集中的に経験できる． 新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能． 地域周産期母子医療センターであり， 超緊急を含む帝王切開や双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術の麻酔管理も経験できる． 外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている． 急性痛治療にも力を入れており， 麻酔科主導で硬膜外鎮痛や PCA を管理している．先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り， 研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する．

12　九州大学病院

研修実施責任者:山浦　健
専門研修指導医:山浦　健（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）
　　東　みどり子　（麻酔）
　　神田橋　忠　　（麻酔）
　　白水　和宏　　（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
　　牧　盾　　（麻酔，集中治療，救急）

住江　誠　　（麻酔，心臓血管麻酔）
崎村　正太郎（麻酔，集中治療）
福徳　花菜　（麻酔，緩和ケア）
石川　真理子（麻酔）
信國　桂子　（麻酔）
水田　幸恵　（麻酔，心臓血管麻酔）
浅田　雅子　（麻酔，ペインクリニック）
石橋　忠幸　（麻酔）
眞島　妙子　（麻酔）
中村　侑里　（麻酔）
渡邊　雅嗣　（麻酔）
中野　良太　（麻酔）
篠塚　翔　　（麻酔，ペインクリニック）
中島　考輔　（麻酔）
高森　遼子　（麻酔）
赤坂　泰希　（麻酔）
坂田　いつか（麻酔）

麻酔科認定病院番号：8

特徴：九州大学病院は，全国でも最大規模の手術症例数を持っている．特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術），ロボット手術等の症例数も多く，高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる．また，集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど，関連分野での幅広い研修を行うことができる．

13　社会医療法人雪の聖母会　聖マリア病院

研修実施責任者：島内　司　　（麻酔）
専門研修指導医：島内　司　　（麻酔）
藤村　直幸　（麻酔，救急，集中治療）
自見　宣郎　（麻酔）
坂井　寿里亜（麻酔）
佐々木　翔一（麻酔）
井手　朋子　（麻酔）
犬塚　愛美　（麻酔）
高口　由希恵（麻酔）
前田　愛子　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：483

特徴：当院は，救命救急センター，総合周産期母子医療センターを併設している地域中核病院です．救急医療に主軸を置く当院では，24 時間 365 日患者さんを受け入れており，新生児から高齢者まで数多くの症例を経験できます．年間麻酔科管理症例数が約 5000 例あるため，麻酔科専門医取得に必要な症例は，当院で全て経験することが可能です．

当院の麻酔の特徴としては

①整形外科手術，呼吸器外科，外科，小児外科，形成外科に対しては，超音波ガイド下末梢神経ブロックを用いた麻酔管理や術後疼痛管理を積極的に行っています．

②小児の麻酔症例が多いのが特徴です．6 歳未満の小児の手術件数は年間 400 件を超えています．
③心臓血管外科手術は，胸部大血管手術や弁置換術に加え，EVAR など低侵襲心臓大血管手術を経験できます．
④形成外科が，口唇口蓋裂，頭蓋縫合早期癒合症など先天異常に対する治療を積極的な行っているため，気道確保困難が予想される Treacher Collins Syndrome や Pierre Robin Syndrome などの症例を経験できます．
⑤福岡県南の産科医療の拠点であり，ハイリスク妊婦の麻酔を数多く経験できます．帝王切開の手術件数は年間 250 件前後です．
⑥外科，脳神経外科，整形外科，形成外科の緊急手術が多いため，緊急手術症例対応に必要な知識と技術を取得できます．
⑦日本でも有数の股関節・大腿近位の骨折の治療実績を誇り，脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔の手技を多く経験できます．

14　社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院

研修実施責任者：吉村　速
専門研修指導医：吉村　速　　（麻酔）
　　倉富　忍　　（麻酔）
　　福元　智子　（麻酔）
　　阿部　潔和　（麻酔）
　　八田　万里子（麻酔）
　　川崎　莉佳　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1043
特徴：済生会福岡総合病院は，病床数 369 床，手術室９室（うち 1 つはハイブリッド手術室），年間手術症例数約 4500 件，地域医療支援病院，地域がん診療連携拠点病院，福岡県災害拠点病院に指定されている，福岡市の中心天神地区に位置する中規模急性期総合病院である．
ハイブリッド手術室では，TAVI・TEVAR をはじとする経カテーテル手術を全身麻酔科下で施行しているほか，ロボット支援手術システムを取り入れた高度先進医療も積極的に行い，難易度の高い術式や循環器系の重症合併症を有する患者の手術症例が数多く施行されている．
また，第 3 次救急救命センターを有しているため，緊急手術症例が多く，全手術件数の 20%以上が緊急手術で，胸腹部大動脈破裂・頭部外傷・消化管穿孔・多発外傷等の緊急手術に 365 日 24 時間対応し，地域の急性期医療の一翼を担っている．

15　地域医療機能推進機構九州病院（以下、JCHO 九州病院）

研修実施責任者：吉野　淳
専門研修指導医：吉野　淳　（麻酔）
　　芳野　博臣（麻酔）
　　松本　恵　（麻酔）
　　今井　敬子（麻酔）
　　水山　有紀（麻酔，集中治療）
　　小林　淳　（麻酔）
　　井村　一也（麻酔）
麻酔科認定病院番号：257

特徴：北九州市西部を中心に遠賀・中間地域や直方・鞍手地域の地方急性期医療を担っている．超低出生体重児から高齢者まで，さらに成人先天性心疾患合併妊婦やハイリスク妊婦，循環器や呼吸器系に重篤な合併症を抱えた患者も受け入れている．
特に小児循環器科では，九州北部・山口から広域に患者を受け入れており，手術症例も多い．このため，先天性心疾患手術は心室中隔欠損から単心室・複雑心奇形まで多彩である．成人心臓手術も多岐にわたり，弁膜症や冠動脈バイパス手術，急性大動脈解離や大動脈破裂など心臓血管専門医に必要な症例は全てカバーできる（2025年度320例）．JB-POTを有するスタッフは現在6名，心臓血管麻酔専門医は4名，集中治療専門医1名在籍している．手厚い指導体制で後期研修医のスキルアップをサポートする．ハイブリッド手術室での，ASD/PDAカテーテル閉鎖術や動脈瘤のステント手術，大動脈弁置換手術のTAVIに加えて，2024年度より左心耳閉鎖デバイス（Watch Man）も導入された．
また，地域周産期母子医療センターを併設しており，胎児診断を元に産婦人科・新生児科・麻酔科がチーム医療と相互サポート体制で計画的に治療を行い，周産期の産科麻酔・新生児麻酔の研修体制をバックアップする．無痛分娩も年間7例（2025年度）であるが開始した．
麻酔科管理症例は4089例で，6歳未満の麻酔症例数は259例（2025年度）であり，小児麻酔認定医への症例数は十分である．安全・安心な周術期管理を第一としつつも，末梢神経ブロック積極的に併用し，こどもたちにも多角的鎮痛により良好な鎮痛を目指している．
学会発表も積極的に行っており，これまでにはアメリカ麻酔学会や欧州麻酔学会，世界気道管理学会での発表実績がある．

16　独立行政法人国立病院機構　九州医療センター

研修実施責任者：辛島　裕士
専門研修指導医：辛島　裕士　（麻酔，心臓血管麻酔）
甲斐　哲也　（麻酔，ペインクリニック）
中垣　俊明　（麻酔）
虫本　新恵　（麻酔）
川久保　紹子（麻酔）
姉川　美保　（麻酔）
河野　裕美　（麻酔）
渡邊　麻美　（麻酔）
濱地　朋香　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：697
特徴：外科系の全診療科を有し，麻酔科専門医に求められる全ての領域の麻酔を経験することができる．グレードA（超緊急）帝王切開を含めて多くの緊急手術を受け入れており緊急への対応を身につけることもできる．また，心臓血管麻酔専門医認定施設であり心臓血管麻酔も多数経験することができる．術後鎮痛に配慮してエコーガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行しており，対象症例も多いため，神経ブロックも多く経験することが可能である．

17　北九州市立医療センター

研修実施責任者：加藤　治子
専門研修指導医：加藤　治子　（麻酔，ペインクリニック）
齋川　仁子　（麻酔）

原賀　勇壮　（麻酔，緩和ケア，ペインクリニック）
武藤　官大　（麻酔，ペインクリニック，災害）
武藤　佑理　（麻酔，ペインクリニック）
神代　正臣　（麻酔，緩和ケア，ペインクリニック）
豊永　庸佑　（麻酔）
松山　宗子　（麻酔）
中野　涼子　（麻酔，心臓血管麻酔）
小川　のり子（麻酔，ペインクリニック）
岡田　久乃　（麻酔，産科麻酔）

麻酔科認定病院番号：316
特徴：高度型がん診療拠点病院であり、ロボット支援手術を筆頭に高度がん医療の麻酔管理を行います。総合周産期母子医療センターも有しており、超緊急帝王切開を含め産科急患や、出生直後の新生児外科症例を経験します。ペインクリニック（ペインクリニック学会指定研修施設）や緩和ケア（がん治療支援）も学ぶことができます。

18　福岡大学病院

研修実施責任者：秋吉　浩三郎
専門研修指導医：秋吉　浩三郎　（麻酔，心臓血管麻酔，緩和ケア）
重松　研二　（麻酔，集中治療）
柴田　志保　（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）
佐藤　聖子　（麻酔，産科麻酔，小児麻酔）
三股　亮介　（麻酔，心臓血管麻酔）
外山　恵美子　（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）
富永　将三　（麻酔，産科麻酔，小児麻酔）
南原　菜穂子　（麻酔，集中治療）
山田　宗範　（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）
中西　洋太朗　（麻酔，集中治療）
越智　麻衣子　（麻酔，産科麻酔）
原　仁美　（麻酔）
松岡　采花　（麻酔，産科麻酔）
渡嘉敷　綾音　（麻酔，産科麻酔，集中治療）
松本　志緒里　（麻酔，心臓血管麻酔）
丸田　弦　（麻酔，心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：92
特徴：年間8000例以上の手術症例数，約7000例以上の麻酔科管理症例があります．症例数は豊富で，麻酔科専門研修に必要な症例はすべて経験することができます．施設としては，移植手術（脳死および生体肺移植術、腎移植手術），心大血管手術や外傷手術などの緊急手術を多く経験できることが特徴です．麻酔管理では，超音波ガイド下の末梢神経ブロックを数多く行っています．また，術後疼痛管理チームを立ち上げて術後の疼痛管理に積極的に取り組んでいます．周術期管理センターでは看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し，全身状態の評価を入院前から行っています．麻酔科医が主体となって集中治療室(GICU)を運営しており，周術期を通した全身管理の他，肺炎などの内科疾患も学ぶことができます．ペインクリニックでは急性痛･慢性痛に対する薬物療法や神経ブロックを経験できます．緩和ケアではチームの一員としてがん患者とその家族の身体的・精神的苦痛を和らげる支援をしています．その他，神経ブロックを始めとする各種講習会や研修会を定期的に開催しており，様々な資格・

認定を取得することが可能です. 2025 年より新病院となり, より快適な研修環境を提供しています.

19　日本赤十字社　福岡赤十字病院

研修実施責任者：迎　雅彦
専門研修指導医：迎　雅彦　　(麻酔)
　　岩下　耕平　(麻酔)
　　生野　愼二朗 (麻酔)
　　平野　敦梓　(麻酔)
　　緒方　大将　(麻酔)
麻酔科認定病院番号：243
特徴：帝王切開術, 心臓血管手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術の症例数はそれぞれバランス良く行われ, 帝王切開術は特に多い. 腎センターが併設されており, 透析患者の麻酔管理も多い. 全身麻酔を基本に, 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 神経ブロックを併用した麻酔管理を行っている. 近年は麻酔困難症例に対して超音波ガイド下の神経ブロックを積極的に行っている. 今後は周術期麻酔管理を広げ術後痛管理なども拡大していく予定.

20　独立行政法人国立病院機構　九州がんセンター

研修実施責任者：秋吉　浩美　(麻酔)
専門研修指導医：秋吉　浩美　(麻酔)
　　小林　祐紀子 (麻酔)
麻酔科認定病院番号：774
特徴：がん専門病院であり，進行癌に対する複数科合同手術の麻酔が経験できる.
頭頚科領域悪性腫瘍手術に対する腫瘍切除, 遊離空腸皮弁による再建術, 頭頸科, 消化管外科合同の食道切除, 再建術, また下部消化管進行癌に対する泌尿器科または婦人科合同の骨盤内臓全摘出術などがある. 胸腔鏡下腹臥位, 開胸仰臥位食道切除再建術を含む分離肺換気症例も多い.

21　福岡大学筑紫病院

研修実施責任者：若崎　るみ枝
専門研修指導医：若崎　るみ枝 (麻酔)
　　中原　春奈　(麻酔)
　　野口　紗織　(麻酔)
　　熊野　仁美　(麻酔)
麻酔科認定病院番号：398
特徴： 地域医療支援病院として特に整形外科, 消化器外科, 眼科の手術が多く行われており, それ以外には耳鼻咽喉科, 脳神経外科, 呼吸器乳腺外科, 泌尿器科, 消化器内科の手術を麻酔科管理で行っている.
2024 年度 11 月から導入された手術支援ロボットによる手術は今年度から消化器外科, 呼吸器外科, 泌尿器科で行っている.

22　白十字病院

研修実施責任者：平井　孝直　　(麻酔)
専門研修指導医：平井　孝直　　(麻酔)
　　丹羽　紗耶加 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：1140
特徴： 整形外科・泌尿器科の手術症例数が多く，脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔，超音波ガイド下末梢神経ブロックなどの区域麻酔併用症例が豊富である．
腹部消化器外科手術の症例数が多く， 泌尿器科とともにロボット支援下手術が増加している．
心臓血管外科症例では，低侵襲心臓手術が多く血管内手術も行っている．
脳外科症例は， 開藤手術だけではなく， ハイブリッド室での血管内手術や脊椎手術も行っている．

23　唐津赤十字病院

研修実施責任者：白武　孝久
専門研修指導医：白武　孝久（麻酔）
麻酔科認定病院番号：574
特徴：佐賀県北部地域における医療の中核を担っている．消化器外科，呼吸器外科，整形外科， 脳外科， 形成外科をはじめ様々な外科系手術を行なっており， 外傷， くも膜下出血，帝王切開などの緊急手術症例も経験することができる．

24　福岡東医療センター

研修実施責任者：楠本　剛
専門研修指導医：楠本　剛（麻酔）
麻酔科認定病院番号：654
特徴：地域の救急医療を担う，呼吸器外科手術が多い．

25　久留米大学病院

研修実施責任者：平木　照之
専門研修指導医：平木　照之　（麻酔，緩和医療）
原　将人　（麻酔，心臓麻酔）
中川　景子　（麻酔，緩和医療）
平田　麻衣子（麻酔）
亀山　直光　（麻酔）
横溝　美智子（麻酔）
太田　聡　（麻酔）
服部　美咲　（麻酔）
藤田　太輔　（麻酔，心臓麻酔）
木本　義敬　（麻酔）
西原　千晶　（麻酔）
川上　真代　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：41
特徴：福岡県南部の中核病院． 新生児， 開心術， 高難度手術など幅広く手術麻酔を行っています． 手術症例数が豊富であり専門医として必要な手技を数多く経験することができます．

26　大牟田市立病院

研修実施責任者：上瀧　正三郎
専門研修指導医：上瀧　正三郎（麻酔）

伊藤　貴彦　（麻酔，救急医療）
麻酔科認定病院番号：386
特徴：地域医療支援病院，がん診療拠点病院，災害拠点病院．小児麻酔や産科麻酔，脳神経外科や胸部外科の症例が豊富で緊急手術も多い． 災害拠点病院でもあり， 救急医療にも力を入れている．

27　筑後市立病院
研修実施責任者：江島　美紗
専門研修指導医：江島　美紗（麻酔）
合原　由衣（麻酔）
麻酔科認定病院番号：900
特徴：災害拠点病院．鏡視下手術の麻酔や手術室外での麻酔を経験できる．

28　久留米大学医療センター
研修実施責任者：西尾　由美子
専門研修指導医：西尾　由美子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1451
特徴：クリニカルパスを含めた， 手術麻酔のマネジメントを経験できる． また整形外科疾患におけるエコーガイド下末梢神経ブロックを集中的に経験することができる．

5. 募集定員
15 名
（＊募集定員は，4 年間の経験必要症例数が賄える人数とする．複数のプログラムに入っている施設は，各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先
① 採用方法
専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限（2026 年 10 月頃を予定）までに志望の研修プログラムに応募する．
② 問い合わせ先
本研修プログラムへの問い合わせは，大分大学麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．
大分大学　医学部　麻酔科学講座　松本重清
大分県由布市挾間町医大ケ丘 1-1
TEL　097-586-5943
E-mail　sigekiyo@oita-u.ac.jp
Website　https://anesth.wp.med.oita-u.ac.jp/

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について
① 専門研修で得られる成果（アウトカム）
麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4 年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の 4 つの資質を修得した医師となる．
１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

3年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての大分県立病院，大分市医師会立アルメイダ病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導します．